

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2004. 06. 30

参加者 倉橋（西大寺南小）三辻（彦崎小）松本（国府小）田辺（津島小）福井（伊島小）

今学期最後の例会です。これから学期末の過密スケジュールに突入し、それらが終われば夏休みです。夏休みには、東京の未来科学館で行われる初等理科教育中央夏期講座で松本先生が4年生「電池を使って直列・並列」の発表したり、倉敷科学センターで行われる夏期研修会に静観台として『金属標本』のブースを出したりする予定になっています。個人的に福井は、今年も青少年のための科学の祭典全国大会を皮切りに夏休みの半分かくらいの日数どこかで科学教室をする予定になっています。2ヶ月間の休会で新しいネタを仕入れて、また2学期に持ち寄りましょう。

[KICK DIS] 松本

体育でサッカーの練習などに使えるようなホバークラフトです。電源はバッテリー式で6VのACアダプターがついています。松本先生はこれをインターネットのオークションで600円で手に入れたそうです。なかなかの買い物上手です。



[HOBBY JAPAN堂々6位!] 倉橋

倉橋先生の超大作の手作り模型が雑誌のコンテストで堂々の6位になりました。実物の作品の素晴らしさを見ている我々ももっと上の順位でもいいんじゃないの!?と少し不満でしたが、応募総数422点と聞くと、しょうがないかなと納得しました。



[量産型『教訓茶碗』] 福井

夏休みの科学体験イベント用に量産型の『教訓茶碗』を開発しました。制作の容易さ、適当な値段、水の落ち具合…などをいくつかの試作品で実験した結果、PP（ポリプロピレン）のコップにドリルで穴をあけ、8ミリ径のビニールパイプを通す方法に落ち着きました。これを約300個これから用意します。



[普及型『ヘロンの噴水』] 福井

青少年のための科学の祭典での福井の十八番といえば『水芸』ですが、その中でも定番中の定番がヘロンの噴水です。ヘロンとは古代ギリシャの科学者の名で、彼が考え出したこの噴水は動力も熱源も使いません。原理を考えるのが楽しい不思議な噴水ですが、これまでは作るのが結構大変でした。今回考案した普及版は、子供でも作りやすくなっています。

[短い劇「あっ!」「なるほどじいさん」] 松本

「あ!」「ああ!」「あーあ。あ〜あ。」「あ〜あ〜あ〜」セリフはこれだけです。これに場面ごとの状況や登場人物の気持ちなどが加わるとセリフの読み方が変わってきます。例えば、落ちていたサイフを見つけた時の「あ!」、それをネコババしようとするのを見かけた時の「あ〜!」と読み方がずいぶん違う訳です。同様の劇に「えっ!」というものもあるそうです。「なるほどじいさん」の方は北原白秋のユーモアたっぷりの詩で、学級での群読の練習に向いているそうです。毎日こんな詩の授業があったら楽しいでしょうね。